

第72回ITER機構職員募集説明会でのQ&A

1. 日時・場所

平成26年3月26日(水)～28日(金)

東京都市大学 世田谷キャンパス (日本原子力学会「2014年春の年会」展示会会場)

2. 来訪者: 21名

3. 説明概要:

日本原子力学会「2014年春の年会」展示会会場において、来訪者に核融合、ITERなどに関する資料を配布し、ITER計画について説明及びITER機構職員募集を行った。

(ITER計画管理グループ 齋藤、ITER統合支援グループ 森山)

4. 主なQ&A

Q: 日本からITER機構へは何人派遣されていますか？

A: ITER機構の職員総数は2014年2月末現在で519人です。専門職員が321名、支援職員が198名です。日本からは24名の研究者・技術者が専門職員としてITERの建設活動に従事しています。支援職員は6名です。日本国籍の方の割合は、専門職員が7%程度となっています。より多くの日本人がITER機構で働けるよう支援を行っております。

Q: ITERはいつ完成するのですか？また、現在どこまで建設が進んでいますか？

A: 2020年に最初のプラズマを点火することを目指して、装置建設が進んでいます。その後、重水素を使った運転を経て、2027年にトリチウムを用いた運転が開始される予定です。現時点で完成しているのは、PFコイル建屋と本部ビルです。トカマク建屋、組立建屋、クライオスタット組立建屋については現在建設中で、特にトカマク建屋については、基礎工事が完了しています。

(※写真参照)



トカマク複合建屋の基礎工事(2014年3月)

Q: 日本の機器の分担について教えてください。

A: 日本が分担する調達機器は、多岐にわたります。中心ソレノイド、トロイダル磁場コイル、トリチウムプラント設備、ブランケット遠隔保守機器、ダイバータ、高周波加熱装置、中性粒子加熱装置、計測装置などです。

Q: ITERとJT-60SAの関係を教えてください。

A: JT-60SAの目的は①ITER技術目標達成のための支援研究、②原型炉に向けたITER補完

研究、③人材育成の 3 つです。ITER と同じ形で高い性能を持つプラズマ運転を行い、その成果の ITER へ反映や、ITER 計画をはじめとする核融合研究を主導する研究者・技術者の育成を行います。

Q: 六ヶ所サイトでは何をしていますか？

A: 平成 19 年から、核融合エネルギーの早期実現を目指す、日欧共同の「幅広いアプローチ (BA) 活動」が開始されました。六ヶ所サイトでは、この BA 活動のためにスーパーコンピュータ(愛称「六ちゃん」)を導入するとともに、核融合炉の材料や燃料(トリチウム)の取扱技術開発のための実験を行っています。更に、平成 24 年度末からは、欧州が製作した加速器が搬入され、今後試験が開始される予定です。

Q: ITER 機構職員公募に関する情報提供のための登録制度について教えてください。

A: 本登録制度は、政府より日本の国内機関(JADA: Japan Domestic Agency)に指名された日本原子力研究開発機構が、ITER 機構による職員公募に応募する可能性を有する方に e-mail を用いて職員公募情報提供するために、あらかじめ e-mail アドレスなどの情報を JADA に登録させていただくものです。登録されますと、以下の情報提供を受けられます。費用はかかりません。登録された方の要請に従って、登録された情報を訂正・削除できます。

- 1) ITER 機構職員公募に関する情報提供
- 2) ITER 機構による面接試験の模擬ビデオの閲覧
- 3) 応募書類の英文確認(応募する予定のある希望者)
- 4) 面接の英語トレーニング(応募書類を提出し、かつ書類審査に合格した希望者)
- 5) JADA が行う ITER 機構の職員公募に関する説明会の開催情報
- 6) ITER 機構が毎週出す ITER Newsline の送付
- 7) その他 ITER 機構職員公募への応募を検討するために役立つ情報

以上



日本原子力学会「2014年春の年会」展示会場の様子